

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地の3		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、自然が多い所にあり、当施設から、由布岳・鶴見岳の美しい景色が見られます。2、施設の診療所、近所には医科大学病院があり、医療面は充実しています。3、当GH内での行事等を行ったり、コロナが落ち着けば、隣接した法人施設があり、行事への参加や、交流など、少しでも充実した生活が送れるよう職員心掛けております。4、現在コロナ禍にて行えておりませんが、当地域と馴染めるよう出来る範囲での行事等の参加や、当地域内での挨拶・声掛けを忘れずにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・母体が医療法人で健康管理や色々な相談がしやすい。医師や看護師との連携が取れており医療面で安心である。
 ・窓から鶴見、高崎の山々が望め緑も多く自然豊かである。
 ・地域との連携も取れ自治会長との関係も密である。
 ・職員が資格取得に意欲的で頑張っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人の個性・性格を尊重し、家庭的で温かい生活が送れるように日々努力しております。それと共に地域との共存・共栄が出来る施設にしていきたいと考えております。	『安心して自分らしく暮らせる』をモットーに地域密着型サービスの施設として職員で支援し、理念は廊下に掲示され利用者本位のケアに努めている。市からの要請があれば災害時の在宅要介護者の受け入れ体制もあり。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当法人は当地域の自治会・老人会に加入しており、出来る範囲で参加しておりますが、現在もコロナ禍の現状が続いており、参加見合わせを続行中です。現状落ち着き次第、状況見つつ徐々に参加等を検討していきたいと考えております。現在当自治区とは運営会議を通じ情報交換しております。	コロナ禍で思う様に交流が出来ずにいるが落ち着けば働きかける計画はある。地区の情報誌、市報、新聞、たより等を貼って利用者が見れる様にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通じて、入居者家人や自治区長・自治委員などに働きかけをし、各地域の高齢者の暮らしについて等の情報収集し、その内容を検討し、可能なものは、当施設にて還元・実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、二ヶ月に1回行っており、今年度より、コロナ禍の状況を見て外部(市・地域包括)の参加者を入れ行っています。参加の難しい場合は後日電話などで、対応しております。	コロナ禍ではあるが状況を見て行政、地域包括が来所しての会議が開ける様にした。コロナ禍で来所出来なかった時は状況をFAXや電話で相談出来、意見を頂き、支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人を含め、定期的に市の担当者と連絡し、運営上の悩みから小さなことまでご相談をし、常時アドバイスを頂いております。引き続き現在も続いているコロナ禍にも何かあれば連絡をし対応を行います。	市の担当者に社会資源や利用者支援についての質問等疑問や困難事例など適切なアドバイスを受けている。常に関係を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことなく出来る限り自由かつ安全に配慮した生活が送れるように常時対応しております。同時に当法人の内部研修などに参加し、各職員に情報・共有をし、身体拘束のない生活を目指しております。	法人内での研修で身体拘束をしないケアの取り組みを職員で共有し、実践につなげている。玄関の施錠は夜間のみ。元々アパートの為、空室に関しては施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の虐待だけでなく、言葉の虐待も同様に常時注意をし対応に努めている。その件に関しても研修などで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では事例がないが、内部研修などにより、認識を深め、必要な場合にはいつでも対応・支援が出来るよう体制を整えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時から契約時まで丁寧な説明を、併設相談員を交えて行い、個々の立場を尊重した対応を心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在新型コロナ拡大防止により、面会制限しておりますが、物品等の受け渡しについては玄関窓口にて行っており、その際にご意見等をお伺いしています。その中で重要な意見等があれば、他職員・併設相談員・ケアマネ・幹部等に相談対応ができる体制です。	利用者は廊下等開放的で自由に行動する事が出来ている。現在はコロナ禍で面会制限になっているが、利用者の支払い時等に意見を頂いたり、電話で伺うこともある。意見があれば他職員やケアマネ、関係者で相談対応出来る体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度も引き続きコロナ拡大防止の為会議開催を見合わせており、重要な情報等は、各部署にての情報共有に努めております。その中で重要な意見等出れば、改めて話し合いを行い、幹部等に報告出来る体制です。	朝のミーティングや引継ぎ時に気づきの部分を情報共有している。法人からの情報も皆で伝達出来ている。意見等直接理事長に伝える事もあり、話しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	引き続き今年度もコロナ拡大防止の為、会議開催の見合わせており、就業環境については、都度幹部等と話し合いを設け対応に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時には、法人での研修が実施され、段階に応じた研修を行っています。また、月1回の内部研修報告等で職員間での情報を共有しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	引き続き今年度もコロナ拡大防止の為近隣同業者との交流は見合わせております。今後の感染状況が落ち着き次第、交流等を検討していきたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、改めてご家族様や利用者本人からの情報を得よう努力しております。また、入居時の不安や不満があった場合には話し合いの場を設け、不安内容を明確化し、取り除ける様相談員と協力しスムーズに入居できるよう対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の施設見学を経て、納得のいく入居の運びとなっている。また、当法人・事業所の取り組み内容を説明し、入居者・家族様の不安・要望等を聞きつつ、発展的な信頼関係を築ける様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容から、ニーズを抽出し、問題点や不安・悩み等を聞き、問題の軽減に努めている。また、今後のサービス内容についても、その都度、本人・ご家族様に相談し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の思いを大切にしながら、人生の先輩であることを忘れず常時対応に努めております。同時に、入居者・職員が互いに尊重しあいながら生活を送れるよう心掛けております。また、日常生活において、入居者の新たな発見があればさりげない支援にも取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話等で利用者様の現状を報告し、共に支援していく関係を築いております。また、コロナ禍が落ち着けば、面会の緩和・行事のお知らせ等を検討していく考えであり、1日でも早く出来るよう願っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在も、コロナ禍により、家族・外部との面会制限をしておりますが、入居者様より、家族・友人等への連絡を希望した場合には電話・手紙等で支援できるよう努めております。	面会制限の中、利用者の状況を知らせる工夫として写真を撮り手紙に入れて送ったり、電話を利用し近況を知らせている。関係が途切れない様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や過去の生活歴を把握し、ホーム内で気心が許せる関係が築ける様に職員が話しかけたり、入居者同士等のゲーム交流などを支援し対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様には悩み・ご相談があれば、当GH及び当法人にお気軽にお問い合わせくださいとお話し、持続的な関係が出来るよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からお話を聞いたり、生活の中で入居者との交流を図りながら本人の思い・意向の把握に努め、それを基に、フェイスシートに記入している。また、利用者の思い・意向の把握が困難な場合は、日頃の支援等の中で表情や反応で探り出し、対応しております。	認知症の人の為のセンター方式での利用者の状況把握をし、家族、職員で書き込みをしている。担当制ではあるが掃除等はほかの職員も一緒に行っている。利用者の思い等をフェイスシートに記入、柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より、過去の生活歴や生活環境、趣味等を聞き、その利用者にあった生活が送れるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時記録や申し送りにて各入居者の状態の把握に努めており、生活の中で常時各入居者の心身の状態を基に対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングシートを基に家族様の意見や満足度を聞き取り、定期的カンファレンスで利用者・家族・職員の意向を取り入れ介護計画を作成し、全体で共有している。	定期的なモニタリングとカンファレンスで詳細に計画が立てられている。心身の状況変化時の見直しは職員で話し合い全体で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化や、介護計画に沿った実施記録を記入している。また、その情報を共有し計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所と連携を図り支援に努めている。また、各家族とも都度連絡を行い関係を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人は、古野自治区と防災協定を結んでおり、行事の参加などの交流を深めながら、地域に馴染めるよう努めている。また、当地域の消防・警察なども協力関係を築いており、特に消防とは、定期的な防災訓練にて協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科が当GHIに定期的往診や急な受診などの対応し、利用者の安全と信頼を得ている。また、入居前に通院等していた医療機関や専門医の受診を希望した場合には、当内科医師との相談の上柔軟な対応を行っている。	入居前からのかかりつけ医を利用する事も出来るが、母体の医療機関を家族が希望する事もあり柔軟に対応。訪問診療も月2回、突発的な体調不良等は母体クリニックの医師と相談し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当GHIは医療法人運営の為、併設内科看護婦が健康管理などの対応を行い、利用者への対応・連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡は当法人が内科を運営しており、迅速な対応が可能である。また、入院先の医療機関の主治医・看護婦との連絡や申し送りなどの連携を密にとり、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合やターミナル期については、その都度ご家族様と話し合い、意思や今後の方向性などを医師・相談員を交えて伺っている。また、職員間で該当利用者の状態を常時把握・支援し都度内科医師・看護婦と連絡等をし対応に努めている。	入居時に重度化した場合の対応を本人、家族に説明し同意を得ている。看取りを行う体制は取れている。母体医療と連携し、24時間対応出来る体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の備えとして当法人のマニュアルを常備しており、内部研修などを通し随時対応が出来るように努めている。また、当法人各部署にも連絡・協力できる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	古野自治区と防災協定を結んでおり、災害時には協力を得られるようになっている。避難訓練も当法人で定期的に行っており、速やかな避難が出来るよう努めている。また、食品備蓄については当法人と併設厨房と契約している会社と協定を結んでおり、災害後直ぐに支援できるようになっている。	年2回災害訓練を行っていたが、コロナ禍で個別での訓練を実施。地域との防災協定があり3日分の備蓄、その後も対応してくれる契約あり。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人一人を尊重している。同時に、各入居者に対して、常時プライバシーに注意し対応に努めている。また、個人情報についても、研修もそうだが、常時外部に漏らさぬよう職員全員留意している。	利用者一人ひとりの個人情報を大切に、外部に漏洩しない様職員間で徹底している。声掛けも接し方もプライバシーの保護に対応している。研修は法人内での内部研修として行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個々の性格に合わせた対応に努め、利用者の自我が難しい場合は、ご家族様、外部などの協力にて対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的なリズムはあるが、各入居者の体調や気分により、自室にて過ごしたり、気分良ければホールにてレクなどするなど、本人の希望に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常時身だしなみには気を使っているが、理美容については、現在もコロナ禍の為、外部への外出並びに依頼は、見合わせており、出来る範囲での対応に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けについては、各入居者の状況に合わせて、出来る範囲で行っている。また、食事中は各入居者の状況に合わせて、対応をしつつ明るい雰囲気ですぐに食事ができるよう、努めている。また、各入居者の嚥下状況並びに好き嫌いを把握し、都度法人栄養士と連携し、支援している。	母体の老健の厨房より副食が届き、ご飯とみそ汁は事業所で作っている。希望で刺身等の意見があれば栄養士に相談、柔軟に対応してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の栄養・水分摂取量等を基に当法人の栄養士が献立を作成し都度利用者の好みや希望を入れつつ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を考慮し、活かしながらその日の状態を確認しつつ行っている。また、月一回の口腔ケア研修に参加し、口腔ケアに活かせるところは活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それぞれに合った対応を無理のないようかつ、プライバシーに注意して行っている。	排泄パターンを把握しており、時間を見て声掛け誘導している。プライバシーを配慮し交換、支援している。居室にトイレあり、共用空間で過ごす時はフロアのトイレ使用。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い利用者個々に合わせた生活や軽度の運動等を行っている。また、排便困難等のかたには、医師との相談を基に処方薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じていつでも入浴が可能である。他にも汚れが気になった時や汚染等状況に応じて入浴などの対応に努めている。また、その日の体調や気分に応じて清拭等に変更したりと清拭保持には気を遣っている。	基本週2回の入浴である。3人中2人が浴槽につかれる。毎日希望する人もいるが皮膚の状態から日を空けての入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スペースを確保しており、ゆったりと心地よい生活が出来るようになっている。また、個々の体調等に応じて居室の訪室や声掛けや昼夜逆転等の防止の為活動の参加・促しをし、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は全入居者の服薬情報を把握し、服薬の際には毎日個人記録のチェック表などに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や趣味を把握し個々の身体状況に応じて役割をお願いしたり、レク等を一緒に行ったり等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在もコロナ禍の為基本外出・散歩等は規制・見合わせており、なるべく室内での活動にて対応しておりますが、もし、入居者の強い要望等あれば、併設医師と相談し、感染状況に応じての支援をしています。外出については感染状況が落ち着けば徐々にであるが、検討しております。	コロナ禍で外出制限があったが、今は施設の周囲を散歩出来ている。コロナが落ち着いたら車から降りないドライブを計画中。廊下を歩く姿が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、買い物等の時は職員が見守りし、職員が買い物代行した時は、注意・大切に保管・使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より、手紙・電話の要望あれば、可能な限り対応・支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに、季節の花を飾ったり、季節ごとの飾りつけをし、季節を楽しむような対応を可能な限り行っている。また、昔のポスター等を貼り、空間を楽しむ対応も行っている。	共有スペースにソファがあり、職員と並んで座り楽しそうに話していた。クリスマスの飾りがあり、窓からは外の景色を楽しむことが出来、車の通り、山や木々の紅葉も見え季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子や共同テーブルを設置し過ごしやすいよう配置している。また、ソファも設置し、入居者・職員が共にリラックスできる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々アパートだったので各居室には、洗面台やトイレなどが設置されております。入居者の中には、馴染みの物を持って来ている方もおり、すぐに馴染めて生活できる入居者もおられます。	3階建の施設で高崎山や鶴見岳が見え明るい陽がさしこみ、落ち着きある空間になっている。ベランダはあるが前が道路の為開放不可になっている。各室洗面台、トイレの設置あり。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、風呂場やトイレなどには手すりや段差を抑えるための踏み台等を用意しております。また、他の場所の手すりなどの必要な所があれば、検討・設置を行っています。		